

啄木と渋民の人々

小学の首席を我と争ひし 友のいとなむ 木賃宿かな

かの家のかの窓にこそ 春の夜を 秀子とともに蛙聴きけれ

わがために なやめる魂をしづめよと 讚美歌うたふ人ありしかな

年ごとに肺病やみの殖えてゆく 村に迎へし 若き医者かな



啄木が幼少期からおよそ 18 年を過ごした故郷渋民村(しぶたみむら)。しかし、明治 40 年、21 歳のとき「石をもて追わるごとく」故郷を後にした啄木は、二度とその地を踏むことはありませんでした。渋民の人々と啄木はどのような交流をしていたのか、ひもときます。また、歌集『一握の砂』に詠み込まれている渋民時代を回想した短歌や、小説「雲は天才である」「鳥影」のモデルになった人物と作品についても紹介します。

啄木の故郷渋民村、かつての奥州街道。

2020 年 2 月 4 日 (火) ~ 5 月 10 日 (日)

たとえば、
こんな人たちが登場！



上野さめ子・啄木の同僚



堀田秀子・啄木の同僚



齊藤佐蔵・我が弟



瀬川彦太郎・若き医者

開館時間 9 時 ~ 17 時 (入館は 16 時 30 分まで)
入館料 一般 300 円 高校生 200 円 小中学生 100 円
* 盛岡市内にお住いの 65 歳以上、小中学生は確認できるものを提示すると無料。
休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
石川啄木記念館 岩手県盛岡市渋民字渋民 9
TEL 019-683-2315 FAX 019-683-3119
URL▶ <http://www.mfca.jp/takuboku/>

